

vol. 2335

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL／(097) 556-2838 FAX／(097) 556-8998 MAIL／ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二

【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ

【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 2025年度 人事院勧告 4年連続の賃金増(3%を超えるのは34年ぶり)
- 2025年度 日教組九州地区協議会 定通部学習会
- 2025平和行動 in 大分
- 教員採用二次選考試験対策会
- 8・15戦争に反対する県民集会
- 日教組九州地区協議会第67回「教育運動交流集会」

2025年度 人事院勧告(8月7日) 月例給平均3.62%増 一時金 0.05カ月増 4年連続の賃金増(3%を超えるのは34年ぶり)

人事院は8月7日、2025年度の国家公務員の賃金を平均で3.62%(15,014円)引き上げ、期末・勤勉手当は0.05カ月増加し年4.65カ月とするよう国会と内閣に勧告しました。賃金月額と一時金ともプラス改定は4年連続で、月給引き上げが3%を超えるのは1991年度以来、34年ぶりです。

人事院は勧告に当たり、民間の給与水準を調査し公務員と比較する対象企業規模を、今回からこれまでの「従業員50人以上」から「100人以上」へ変更しました。しかし、2006年に民間企業の業績不振を受け民間調査対象企業を従業員100人以上から50人以上に拡大したことを考えると、約20年経ってようやく実相に近い調査に戻したに過ぎません。また、本府省職員の比較対象は、東京23区に本店を置く「500人以上」から「1000人以上」へ見直しました。

今回の勧告も、昨年度の勧告と同様に若年層に重点を置いた改定です。初任給は今回も大幅に引き上げられ、大卒総合職は12,000円増の242,000円、高卒一般職は12,300円増の200,300円としています。

この結果、本府省採用の大卒総合職の初任給は、手当を含めて301,200円となり30万円を上回るなど、民間との人材獲得競争を意識する内容となっています。

初任給の大幅アップについては、大変好ましい勧告内容となっていますが、最高号給も同じように引き上げがなされなければ、年齢が進むにつれて賃金上昇が望めず、一概に喜んでばかりもいられない賃金引上げになっています。人事院勧告を受けて、これから地公労の対県交渉が始まりますが、大きな課題として中高年齢層の賃金アップにとりくまなければなりません。

2025年度 日教組九州地区協議会 定通部学習会

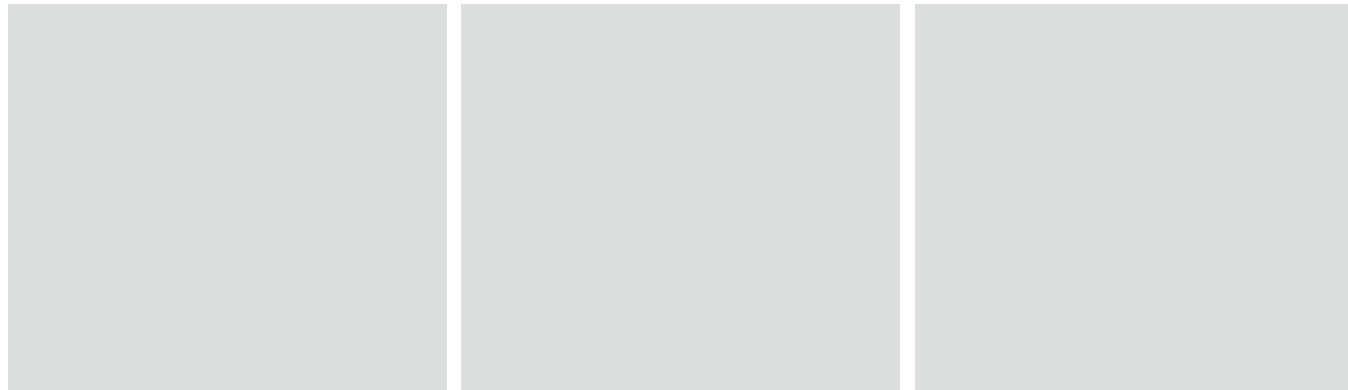
とき 7月25～26日(金～土)

ところ J:COMホルトホール大分

7月25、26日、J:COMホルトホール大分にて九協の定通部学習会を行いました。各県の定時制・通信制・分校がもつ課題を共有し、今後の定通分校教育のあり方について議論を深めました。

日本の高校生の12%（約26万人）が通信制に通っている状況で、さまざまな状況にある生徒一人ひとりが、個別最適な学びができるようにするために、定時制・通信制・分校の役割が今後さらに大切になってくることが再確認できました。

また、学校司書の配置状況については、沖縄は非常勤ではあるが全校配置がされ、福岡では定時制2校に配置されているとのことです。熊本では通信制生徒にもタブレット端末が貸与されたという話もありました。定通分校部としては、他の単組・専門部との連携を強化し、各種交渉に臨まなければならないという思いを持つことができました。



2025平和行動 in 大分

とき 7月26日（土） ところ ソレイユ

7月26日、ソレイユ7F「カトレア」にて連合大分主催で行われた平和学習会に参加しました。伊東俊義さん（大分県原爆被害者団体協議会（大分県被団協））を講師とし「記憶が未来をつくる－戦争の教訓と平和への道」の演題で講演が行われました。

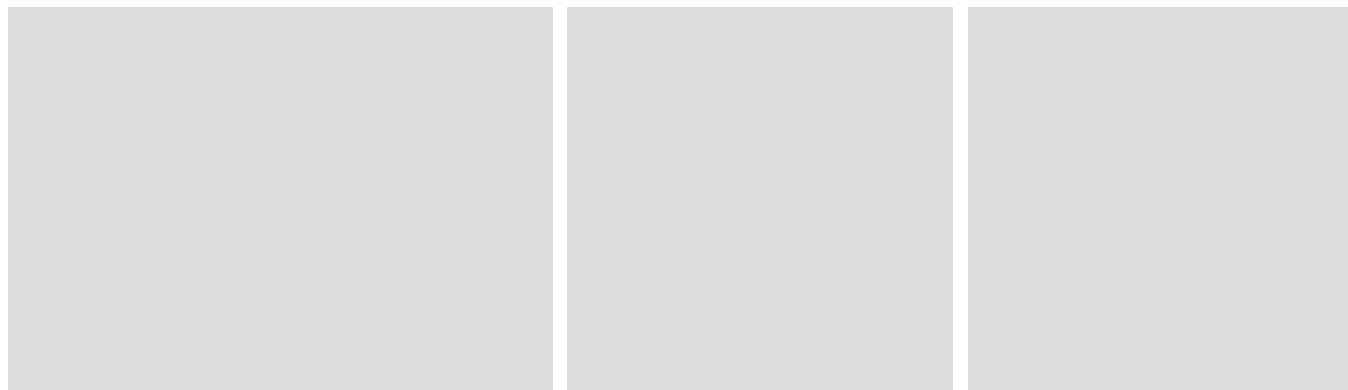
伊東さんの生まれ故郷、保戸島は1945年7月25日に小学校が爆撃され、125人の子どもと2人の担任教師が命を失いました。42人の方の遺体は、見つからないままだったようです。その中に伊東さんの親戚の方もいらっしゃいました。

1954年3月1日の第五福竜丸事件では、保戸島から2人が第五福竜丸に乗り組み、その方を含む23人の乗組員全員が被ばくされました。実はビキニ環礁には第五福竜丸以外にも多くのマグロ漁船がいたのですが、そのことについて国は何も言いませんし、当事者の方も差別を受けることをおそれて何も言えない状況が現在も続いています。

広島・長崎への原爆投下から9年、それまで被ばく者の方は忘れられていた実態がありましたが、第五福竜丸事件をきっかけに広がった原水爆禁止運動の中で、被ばく者の全国組織として1956年に「日本被団協」が設立されました。

未だに日本は「核兵器禁止条約」に署名も批准もしていません。被ばく者からのお願いということで伊東さんが言われた次の言葉を、私たちはしっかり受け止め、行動につなげていかななくてはなりません。

「人類と核兵器は共存できません。私たちは命をかけて、その証人となってきました。今こそ核兵器のない未来を、みなさんと共につくりましょう。」



教員採用二次選考試験対策会

とき 7月27日(日)

ところ 教育会館001研修室

高教組教員採用二次選考試験対策会を、青年部と本部で共催しました。一次試験を合格された10人の方に、青年部役員と本部執行委員が面接官となって、一人当たり15分程度面接を行い、アドバイスをすることもできました。

当日は13人来られましたが、時間等の都合で3人の方は面接の様子を見学するだけとなりました。来年度は、より多く面接官に来てもらい、希望するすべての方が十分な面接を受けられるようにできればと考えています。

来られたすべての方が、一生懸命現場で仕事する中で面接の準備をされていて、面接官が今後の参考にすべき回答も多く聞かれました。

臨時・非常勤の仕事をされながら採用試験を受ける方、学生や教職員以外の仕事をしながら受ける方、採用試験は受けられないが大分県のために尽力されている臨時・非常勤の方々、すべての方が大分県の宝です。大分県で教職員をしたい方全員が、働きたい環境で思う存分働くことができる。それをつくるのが大分県高教組です。今後も、青年部に限らず、組合全体で支援していきましょう。

8・15戦争に反対する県民集会

とき 8月15日(金)

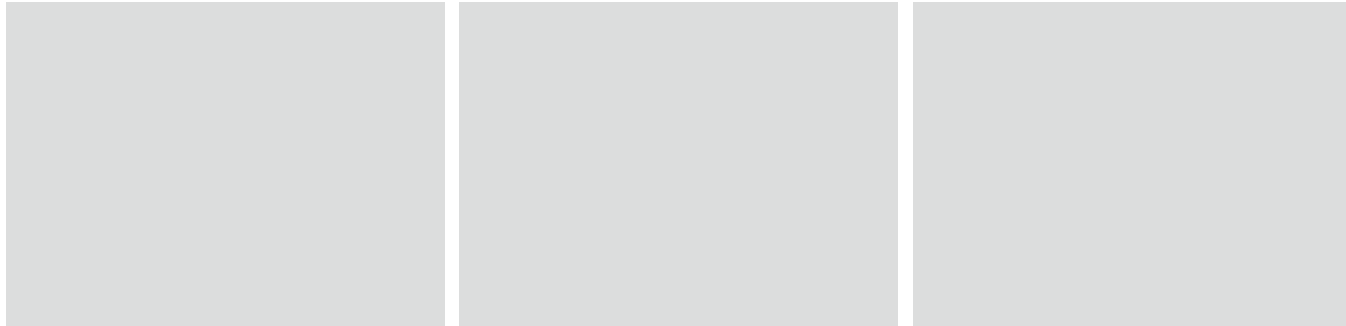
ところ アイネス

戦後80年の8月15日、アイネス2F大会議室にて行われた集会に参加しました。^{かせだ よしのり}総田芳憲さん(立命館アジア太平洋大学教授)を講師とし「戦後80年、軍事力によらざる平和の実現をー日本の安全保障政策の特徴と問題点ー」の演題で講演が行われました。

過去からの流れをふまえ、北朝鮮脅威論、中国脅威論、台湾有事論に対し、「北朝鮮や中国は本当に日本や台湾を攻めてくるのか? 攻めるとすればどういう理由なのか?」という視点での、冷静な批判的検討が必要であるとのことでした。日本は、中国からの脅威ということで物品役務相互提供協定(ACSA)をアメリカを含む7か国と結んでいます。これによりアメリカ以外の国とも軍事物資のやりとりが可能となっています。また軍事版のODAである政府安全保障能力強化支援(OSA)をモンゴル、インドネシア、フィリピン、ジブチに対して行いました。要は無償での軍事支援であり、特に2011年から自衛隊の拠点があるジブチには、昨年からの沿岸監視用のレーダーシステムが供与されています。国内でも、2021年6月に重要土地利用規制法が成立し、基地周辺の土地の所有者等について調査できるようになりました。これにより、敷戸弾薬庫周囲1kmの住民のプライバシーが侵害される恐れが拡大しています。

世界には、ベトナムなど非同盟の国もたくさんあります。本当の意味で、日米安保中心の戦後レジームから脱却し、北東アジアの平和を世界へと広げることが大切です。そのためにも、脅威論から来るものではない、正しい歴史的事実を伝承していくことが重要であるとお話でした。幸いこの国は、憲法9条に守られ、80年間戦争による加害者被害者は出て

いません。しかし世界では戦争・紛争は絶えません。私たちは生活に根付いたところから反戦平和を訴え、それを大きなうねりにしていくことが、「教え子を再び戦場に送らない」ために不可欠です。



日教組九州地区協議会第67回「教育運動交流集会」

とき 8月16～17日（土～日）

ところ ホテルセントヒル長崎

全体会の講演は東京学芸大学の大森直樹教授による「カリキュラムオーバーロードは解消できるか」でした。理科を担当する自分の私見ですが「ゆとり教育」後の学習指導要領はあまりに高度な内容になっている感があります。科学の進歩を考えるとそうならざるを得ないのでしょうか、多くの高校生にそれほど高度な内容を指導する必要があるのだろうかと感じています。夕食交流会で大森教授にその疑念について話ができただことは貴重なものでした。

分科会での私のレポートは、昨年度まで勤務していた通信制高校の現状と課題についてでした。もう1本のレポートは鹿児島高教組の山ヶ城美奈子^{やまが けい}さんが、養護教諭として一生徒とのかかわりをまとめたレポートでした。自分のレポートはあまり知られていない公立通信制高校を多くの方に知ってもらうことが主旨なので他組織、とくに義務制の先生方に聴いていただけたことはたいへんありがたかったです。また、山ヶ城さんのレポートはある生徒との2年間にわたるかかわりの中で、たいへんご苦労された点や利用された制度などの報告でした。県のちがいや義務制、高校のちがいに新しく気づかされることや活用できることを知れて、参加できたことはたいへん良い集会でした。このような体験ができるのは、組合活動の醍醐味だと思います。機会があれば、若い先生方にはこのような集会に積極的に参加されることを勧めます。

全日程が終了後、長崎まで来たのですから長崎平和公園と原爆資料館を訪れました。資料館見学は原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨を改めて思いまし、反戦反核の考えは絶対に絶やしてはいけないと思いました。余談ですが長崎平和公園に隣接するビルに「核は安上がり」発言をした国会議員が所属する政党の大きな看板が上がっていることを発見し、あきれ返りました。

（高田分会 加藤博晴）

教宣部より

○写真・感想等、提供して下さった皆様、ありがとうございました。今後も、行事に参加された方は、写真・感想等をメールにて提供くださいますよう、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

文章は200字程度でお願いします。

○各支部・単組・専門部・分会等での活動等も広報したいと思います。交流会や学習会等についても、写真・記事などを、ぜひご提供ください。

※写真はスマホ撮影のものでも大丈夫です。肖像権にはご注意ください。